

# Ancient Japanese and Korean Relation from the Viewpoint of Royal Blood

王家の血縁から見た  
古代日本と韓半島

Prof. Dr. H. Wakamatsu  
Graduate School of Health Care Sciences  
Tokyo Medical & Dental University

東京医科歯科大学 大学院  
保健衛生学研究所  
若松 秀俊  
와카마츠 히데토시

日本と韓半島の間  
の頻繁な往来

王家・政治家・文化人の交流

天智時代の「閣僚」 江戸時代 朝鮮通信使

漢字文化圏としての類似なメンタリテイ

言語文法の類似性(ウラルアルタイ系)と

語彙の独自性

建造物・仏像・服装・食物の共通点

日本人の構成

原日本人(シベリア・ポリネシア系) 1/3

中国系 1/3 韓半島系 1/3

日本の地名

当て字読み特に北海道・沖縄)

新羅 百済 高麗ゆかりの名称

神社仏閣の名称

高麗 狗 駒 白鬘

北東アジア史

中華思想からの説明 東夷 西戎 北狄 南蛮

日本から見た説明 皇国史観からの好都合解釈

両国に共通に見られるもの

八角形建造物 石搭(高句麗) 仏像 百済)

盆踊り 野遊 風 楽器 独楽

神官・巫女装束 チマ・チヨリ の共通性

須恵器 土師器 陶芸「陶器・磁器」

祝い事 餅 生菓子

農家の造りと農具

歌手 俳優 作家

相撲 レスリング 野球 蹴球

流行の地 交野ヶ原 新大久保

外来語 郷歌 万葉集



山形明郷による

百濟の所在位置 (4世紀末から5世紀初頭)



山形明郷による



山形明郷による

# 王家の祠

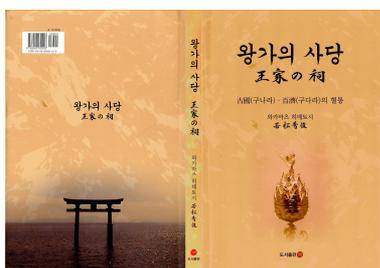
扶餘（王家）の血筋の象徴  
 後裔が王家の血を祠に祀っている  
 すでに半島の王家は消滅している  
 底流に文化の象徴が凝縮している  
 近隣王家内の血筋（相続）争い

現在の中国東北部・韓半島・日本列島周辺

共通の扶餘血統の**王族の所有**

**この地域の王位継承権**

天界を支配する神の子孫として地上の支配権をもつ



「**血の特殊性と均一性**」の思想

王家の血の濃度が一定レベル以下では王家に入れない  
支配階級に留まる（超越支配者には決してなれない）

被支配者（人民）の血は均一性を求められた

**支配者に伴った人々と異民族相互移住と**

**通婚による徹底した混血**

諸々の日本先住民族を出雲族を象徴として、

支配権を「国譲り」として総括

遅れて支配した蝦夷についても同様

天地支配者の

扶餘の血筋（侵すべからず絶対性）

超越支配者

血筋の拡散の少ないほど**天上の神に近い**

支配者の**権力**はもてるが超越的存在にはなれない

藤原氏・平氏・源氏・北条氏・足利氏・豊臣氏

徳川氏・明治政府による**天皇の権威**の利用

乙巳<sup>いっし</sup>の変（大化） 六四五年以前

## 大和王家の出自

百濟沸流系 崇神

新羅系 景行―成務―仲哀

百濟沸流系 応神

百濟温祚系 継体

## 扶餘の王家の血筋

高句麗―沸流系百濟―大和

高句麗―温祚系百濟―大和

高句麗―新羅―大和

## 人物構成

著者の同一人格である一人の旅人が主人公である。どのように歴史に関心をもちそれに入っていたか。

鬼室集斯という王室の流れの因縁を絡ませた。

登場人物は歴史上実在した支配者階級と

実在したと思われる人物を「血の一系」の立場から描いたフィクションである

百濟王明信と桓武・平城・嵯峨との絡み

## 大化の改新六四五年以後

### 大和王家の出自

百濟系欽明―舒明

高麗系皇極―孝徳―齊明

百濟系天智―布基―\*光仁―桓武

新羅系天武―**持統**―文武―元明―元正―**聖武**―**孝謙**―淳仁―**称徳**\*

# 王家の祠

まえがき	扶餘の血	歌垣	後宮の愛
石の祠	血の執念	初恋	樟葉
大和の王家	万葉集	王家の女	血の命脈
渡来	節会相撲	天覧相撲	兄と弟
血と権力	みことのり	天皇の都	出陣
敗北	開眼供養	曲水の宴	神仏の加護
再興の努力	みちのく	父と子	交野ヶ原
新天地	蝦夷征伐	皇位と血統	あとがき
唐の圧力	陰謀と叛乱	宗教	

## 背景構成

扶餘の血の一系により近い王家に天武(新羅系)天皇の存在は大和王朝では異質であったが

持統(百済系)天皇の存在がこれを事実上解消した。

天武―持統―文武―元明―元正―聖武―孝謙―淳仁―称徳

王族内の権力争いと百済系への復帰と政治機構の整備  
血の合体によって改めて百済系権力と権威の基盤整備  
光仁―桓武―平城―嵯峨―淳和―仁明―文徳―清和

日本文化の原型と価値観への展開 花鳥風月 生活様式

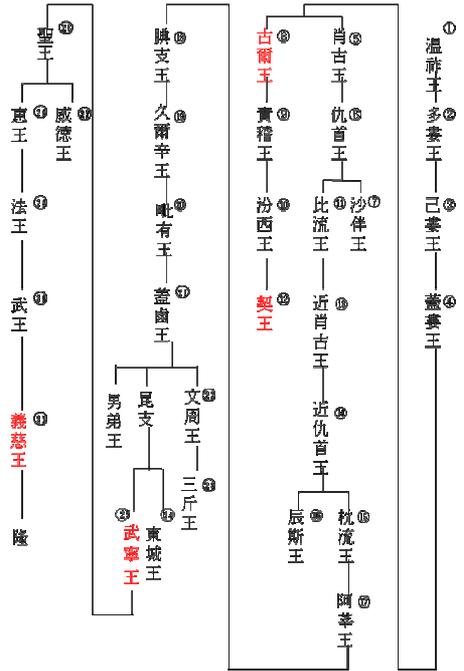
## 一 本文に直接・間接に関連する天皇

継体(五〇七〜五三二)―安閑(五三一〜五三五)―宣化(五三五〜五三九)―欽明(五三九〜五七二)―敏達(五七二〜五八五)―用明(五八五〜五八七)―崇峻(五八七〜五九二)―推古(五九二〜六二八)―舒明(六二八〜六四二)―皇極(六四一〜六四五)―孝徳(六四五〜六五四)―齊明(六五五〜六六一)―天智(六六一〜六六八)―弘文(六七二〜六七七)―天武(六七七〜六八六)―持統(六八六〜六九〇)―文武(六九七〜七〇七)―元明(七〇七〜七一五)―元正(七一五〜七二四)―聖武(七二四〜七四九)―孝謙(七四九〜七五八)―淳仁(七五八〜七六四)―称徳(七六四〜七七〇)―光仁(七七〇〜七八二)―桓武(七八二〜八〇六)―平城(八〇六〜八〇九)―嵯峨(八〇九〜八二二)―淳和(八二二〜八三三)―仁明(八三三〜八五〇)―文徳(八五〇〜八五八)

## 参考文献

古事記 太安万侶 七二二年、日本書紀 舍人親王  
七二〇年、続日本紀 菅野真道 七九七年、新撰姓  
氏録 万多親王 八一五年、懐風藻 近江三船 七  
五一年、日本後紀 藤原 八四一年、続日本後紀藤  
原良房六・伴善男 八六九年、類聚国史 菅原道真  
八九二年、凌雲集 小野岑守 八一四年、経国集  
良峯安世 八二七年、万葉集 奈良御集 水鏡 伊  
勢物語などの記述によるものである。

### 三 百濟王家(韓国側資料)

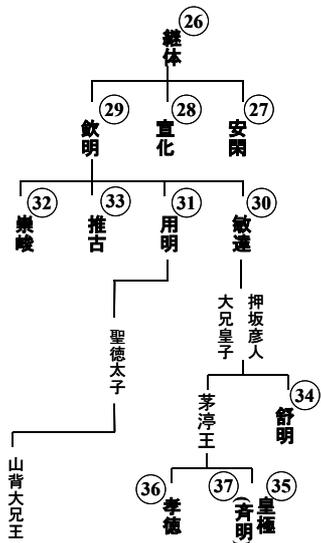


### 二 古代百濟王家

以下の百濟王の系図はソン・ヨノク、チョ・チャンスン著 韓国の歴史(韓国高校教科書日本語訳) 明石書店 平成九年による。すなわち、教科書に記された韓国の公式見解である。しかし、日本側の資料と異なる部分がある。また、韓国の市販の資料とも異なる部分がある。本文は、これらを考慮し、筆者が推測を交えて詳述したものである。

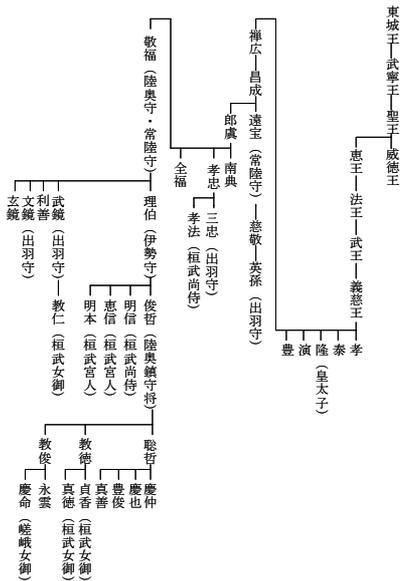
温祚王―多婁王―己婁王―蓋婁王に引き続いて、  
 肖古王(一六六)―二二四 仇首王(二一四)―二三四 沙伴王  
 (二三四)―二三四 古爾王(二三四)―二八六 責稽王(二八六)―  
 二九八 汾西王(二九八)―三〇四 比流王(三〇四)―三四  
 四 契王(三四四)―三四六 近肖古王(三四六)―三七五

### 五 継体天皇から斉明天皇まで



### 四 百濟の流れを汲む家系

大和に根を下した王族は禪広王子である。その他、国宝仏教画を残した百濟可成も知られている。





# 菊

桓武・平城・嵯峨

漢詩・菊の栽培・生命

明治における正式な天皇家紋章

# 宮廷人の社交

百済渡来人の地

交野ヶ原

野遊び・藁狩り・馬遊び

宮廷曲水の宴

花鳥風月

蓮・梅・桃・桜・菊

# 韓半島を源流

風習

放生会 盆踊り 相撲

娯楽

碁・将棋・双六

文学

吏読―万葉仮名 郷歌―和歌

楽器

笛の三笙とコムンゴ、伽倻琴、琵琶の三弦

# 桜

日本人の気質と気候

和歌による意志疎通―相聞歌

渚の院 桜

惟喬親王と在原業平



近江日野鬼室神社



伝 鬼室集斯の墓



白村江錦江



宮南池



特別史跡 百濟寺跡



鬼室福信を祀った  
忠清南道扶餘郡恩山別神堂



武寧王の古墳出土金冠



高松塚古墳壁画



相撲をとる力士埴輪



百濟香炉



大山阪(伝承仁徳天皇陵)



定林寺 百濟塔(ベクテツ)



近江蒲生町の石塔寺三重の塔



曲水の宴を催した慶州飽石亭



曲水の宴が催されたと伝えられる  
平城京左京三条二坊宮跡庭園



桓武天皇肖像平安神宮所蔵



全氏の祖先を祀ると伝えられる古墳



百濟王明徳  
向日市文化資料館所蔵



全義明氏の族譜の一部